



ふふふ♥
いい飲みっぷり
だったぞ♥

あ、ありがと
うございます……

ふたなりお姉さんとの性交

つれる

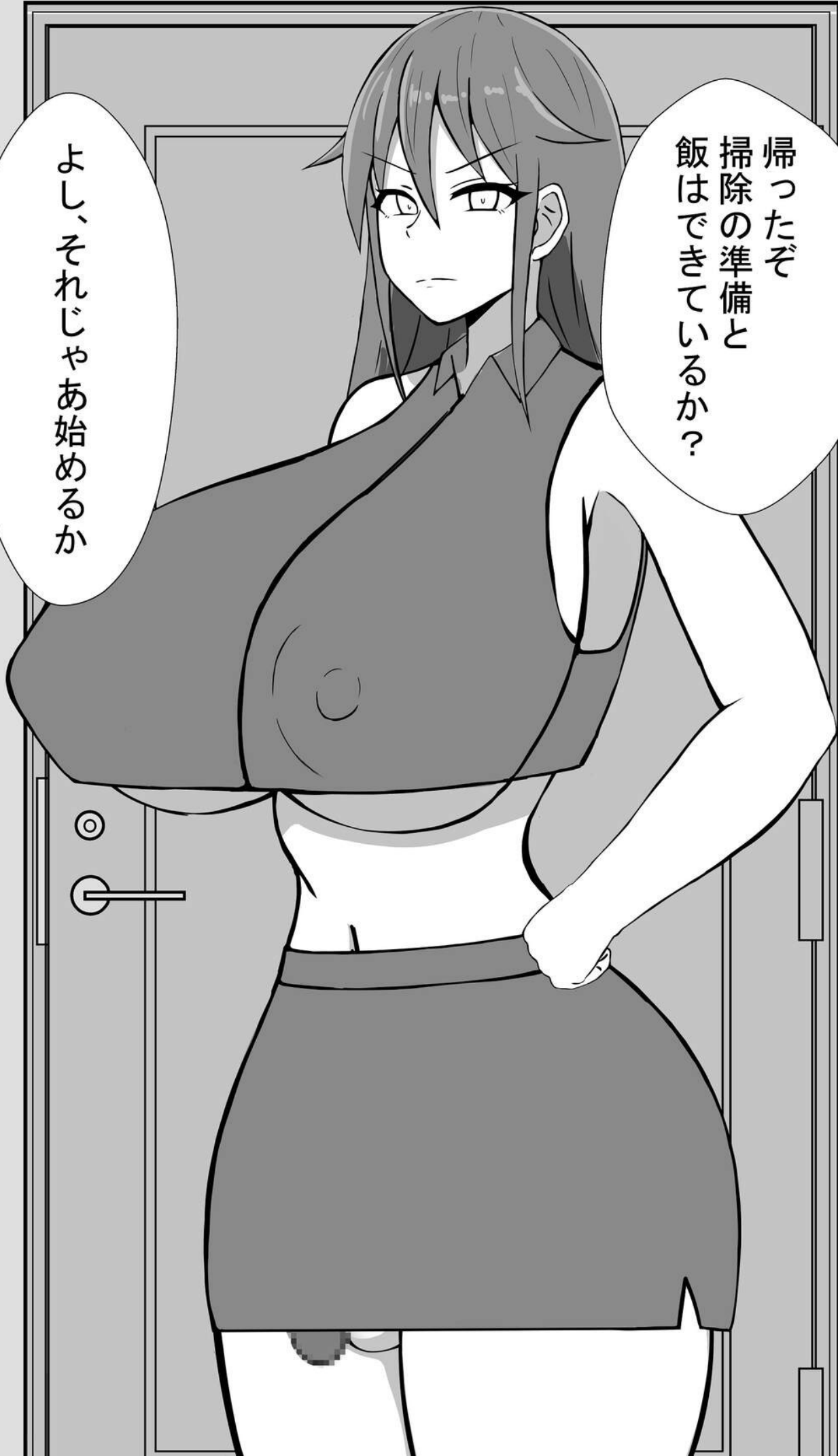


あれだけザーメンを
吐き出したのに、
もうピシッピシッだ

んが
いた

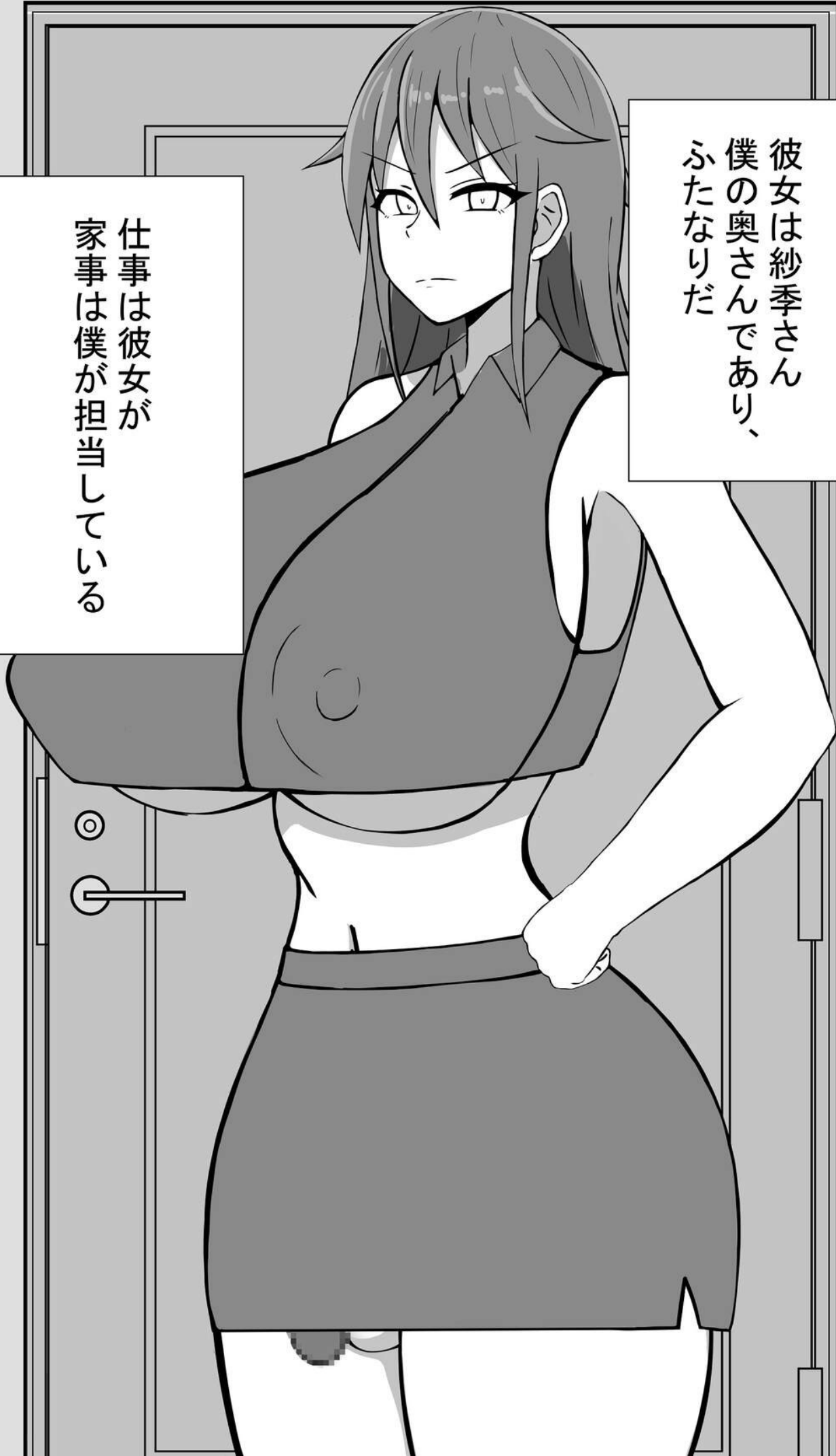
帰ったぞ
掃除の準備と
飯はできているか？

よし、それじゃあ始めるか



彼女は紗季さん
僕の奥さんであり、
ふたなりだ

仕事は彼女が
家事は僕が担当している



そして、
彼女のおチンポ掃除と
性欲処理も旦那である
僕の担当だ





さあ、とつとと始めろ

そう言っ僕顔の前
差し出されたチンポは
鼻が曲がりそうな程の
激臭を放っている



僕の顔より長く、
腕よりも太いチンポは
汗とカウパー汁で
ベトついていた

し、失礼します



しっかりと丁寧
チンポを根本から
先っぽまでしごく

優しく媚びるように

ニクニク♡
ニクニク♡
ニクニク♡



よし、もういいぞ

チンポの脈を打つ
速度が速くなると
次は口でする時間だ





イカ臭いチンポの先に
口を近づけ、舌を出す

そして、物欲しそうに
涎を亀頭に垂らしたら
フェラの開始だ



歯を立てず
口をすぼめ、口内全体で
扱くように出し入れをする

シッポ♡

シッポ♡

あーいいぞ最高だ

自分より弱い男に
ふたなりチンポを
しゃぶらせるのは
堪らんあ



うっ…！
そろそろ出すぞ！

全て飲み込め！



紗季さんの
ザーメンが
勢いよく
噴き出された

しかし、ここで口を
離してはならない

例え咽でも
鼻から逆流しても
飲み干さなくては
いけないのだ

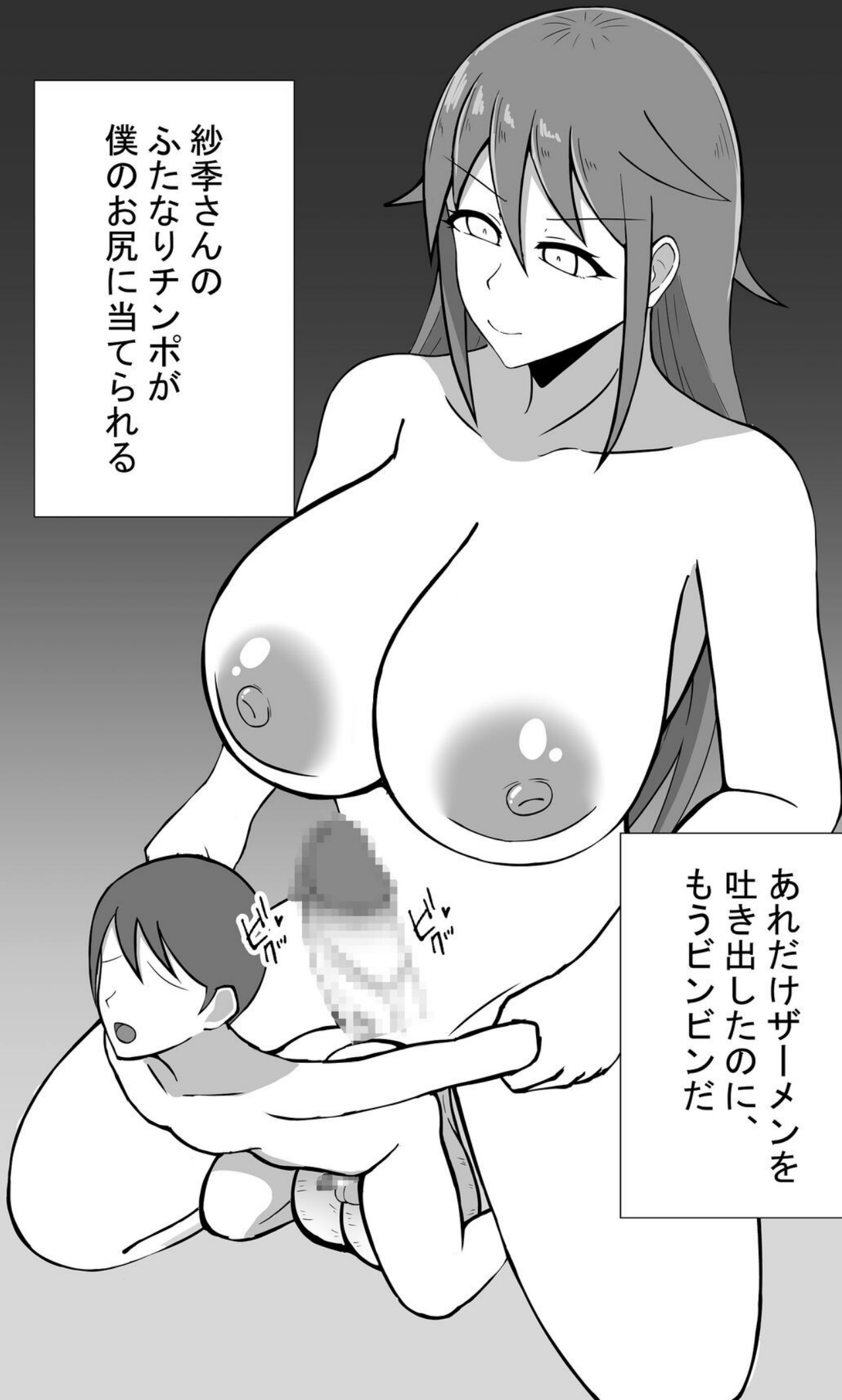


ふふふ♥
いい飲みっぷり
だったぞ♥

あ、ありがとう
ございます…

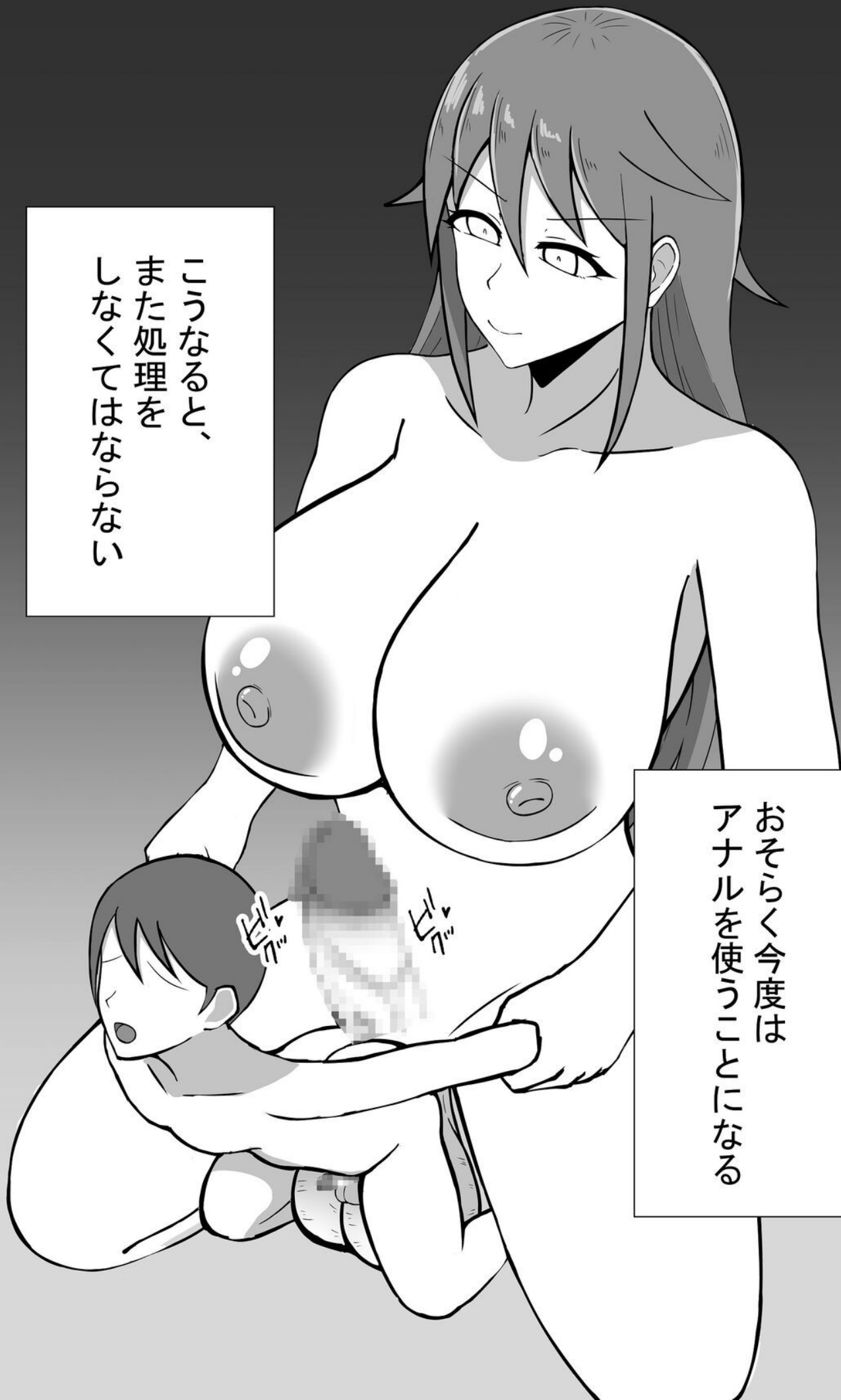
紗季さんの
ふたなりチンポが
僕のお尻に当てられる

あれだけザーメンを
吐き出したのに、
もうビンビンだ



こうなると、
また処理を
しなくてはならない

おそらく今度は
アナルを使うことになる





おい、今から
お前のケツをち犯す

準備は
できているよな？



紗季さんは決して優しく
ゆっくりと挿入なんて
ことはしない

飢えた狼のごとく、
激しく勢いよくその肉棒を
アナルにぶち込んだ

スッポッ

おっ♡





彼女のチンポが
僕の前立腺を
押し潰し、
腹を突き上げた

快樂と共に、
先ほど飲み込んだ
ザーメンがこみ上げて来る

ふふふ♥
どうだ気持ちいいか？

だが、まだ私は
気持ちよくなっていないぞ♥

あ♥

んあ♥

パン

パン

パン





ほらほらあ！
ケツ穴しっかり締めて
ちん媚びしろお！

おチンポで、
もっともっと
突いてください！

んお♡

お♡

パリ

パリ

いいぞお！
いい締めりだ！

うおっ！
ひだがカリにひかかって！

うっ！
イクウ！
出すぞ！

おっ♡

んおっ♡

パン



ははは
やっぱりこいつは
最高のオナホだな♡

ほら、もっとやるぞ♡
今日は寝かさんからね♡♡

はあ

はあ



よいしょ

紗季さんは僕の
体を持ち上げ、
足が閉じれない
ようにした





おっぱいに顔が埋もれ、
気持ちよさと息苦しさが襲う

おっぱいから
必死に顔を出して
息を吸おうとしていると…





唐突の出来事に思わず
体の力が抜け…

おっぱいの中に
再び顔が埋もれてしまう



ん？ なんだ？
息が苦しいか？

チンポを気持ちよくすれば
解放してやるぞ♥

ほらっ！
必死こいてケツ穴絞めろお！





頭が真っ白になり
つつあったが

それでも尻穴を締め続けた



うっ
イクウウウッ!!

出るッ!!

バッ

バッ

バッ

バッ





ふう…気持ちよかった♥
…ってなんだよおい
もう気絶しちまったのか？

しょうがないなあ
少し休憩するか

気が付くと
今度は紗季さんが
覆いかぶさっていた



気付いたか
よし、再開するぞ

言うや否や紗季さんは
チンポを挿入してきた

ズボッ



僕のお尻はすんなりと
紗季さんのチンポを受け入れた

もうメロメロのようだ

紗季さんもう満悦のようだ

ふふふ♡
すっかり従順な
肉オナホになったな♡





紗季さんは力強く
腰を叩きつけ始めた

そらあ！
動くぞお！

先ほどたつぷりと
注がれた精液が
掻き出されていく



精液で滑りが
よくなったからなのか

今までよりも
早く激しく
チンポが腸内を
行き来している





さて、だいぶ汗もかいたし
風呂にでも行くか

は、はい…

ハッ
♡

僕たちは、ベッドの上で
散々吐き出した精液と
汗を流すためにお風呂に来た



しっかり
腋の下もの舐めろ

汗でびっしょり
だからな





紗季さんの体を洗うのも
僕の役目

しっかり汗を
舐めとらないと
恥をかかせてしまう

腋毛の一本一本を口の中で
丁寧な舐めしやぶる

ごわごわとした食感と
しよっぱさが口に広がる



なんだ？
私の腋毛をしゃぶって
チンポおっ立ててんのか？

オラッ
扱いてやるよ！

ガッ

グッ



女性の手とは思えないほど
大きくゴツゴツとした手のひらで
僕のチンポが扱かれ始めた





チンポとザーメン
ぶち込まれるだけでなく

腋毛をしゃぶって
チンポ扱かれるのが
いいとは、ド変態だな

ゴシ

ゴシ



あーくそつ
私もチンポ
硬くなってきたあ！

入れるぞ！



ガバガバになってないかと心配したが、

まだまだいい締めりだ

お

コ



ああ！
ザー汁上ってきたあああ！

イクイクイクツ♥



ああ！
ザー汁上ってきたあああ！

イクイクイクツ♥







ふうー 出した出した
さて、仕事の支度しなきゃな

そういつて紗季さんは
お風呂場に僕を
放置して出ていった

















